



ミニーマウス号



第193号

発行日：令和二年2月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院

院内情報委員会

診察室から ～てんかん（Ⅱ）～

理事長 福田 雄高

※広報誌12月号 てんかん(I)の続きです。

てんかんの診断としては、病歴に加え、脳波検査、及び頭部MRI検査が重要な検査になります。てんかん発作に見られる異常脳波を検出すること、また頭部MRIにより脳の異常な構造がないかを調べます。更にてんかんが疑わしい場合は、てんかん専門医に紹介し、長時間ビデオ脳波モニタリングなどによる、より正確な診断の確定、治療薬が適切か判断することも非常に重要です。

診断されたら、まずは服薬治療が重要です。正しい診断を受け、適切な治療を受ければ、多くの場合、発作を抑えることができます。内服するも効果が得られない難治性てんかんの場合は外科治療を考慮する場合があります。

☆てんかん 日常生活で気をつけたいこと

- ① 規則正しい生活をする。睡眠不足、過労、ストレスは大敵。
- ② 発作の誘因となるような刺激を避けること。過度のアルコール摂取、チカチカする強い光、大きな音、ざわざわと騒がしい環境などは、発作を誘発することがあります。
- ③ できるだけ一人にならないこと。

本人には自覚症状がなく、家族から指摘されてはじめてわかることも多いです。家族の誰かが、あれ？なんかこれって・・・てんかんっぽいかもと気になった際はまず気軽に相談頂ければと考えます。



北堀の夕暮れ

穏やかな景色を眺めていたいものです

マスクの着用 について

院内感染対策委員会

感染症対策として、一人一人のマスク着用・手洗い・うがいなどの実施があげられます。当院では、**外来受診をされる方・面会の方にマスクの着用を推奨しています。**ご協力よろしくお願ひします。

◆マスクの目的

マスクは、特に冬季の乾燥した冷氣から、呼吸器官を守るための保温、保湿する効果があります。ウイルスによる飛沫感染、空気感染である風邪やインフルエンザなどのウイルスの病原微生物を**体内への侵入を防ぎ**、感染症予防やかかってしまったときの、家族や他の人への**感染拡大を防止する**ことが目的です。

◆マスクの着用方法

○ 正しい装着



- ・鼻のラインに合わせてノーズガードを折る
- ・マスクと顔の間に隙間を作らない事

- ・マスクの折り目（プリーツ）を広げてあごも覆う
マスクの折り目（プリーツ）などがあるものは、そのプリーツの山の部分が「下」方向に向くように着用する（これが逆さまになってしまうと、折り目の部分に菌や花粉などが溜まって、逆効果なんだそうです）

- ・鼻と口を確実に覆う

× 間違った装着



鼻が隠れていない



プリーツ（ひだ）が開いていない

◆使用中の注意点

- ・使用中はマスクになるべく触らないようにする。
特に、口周りを覆うフィルター部分には触らないよう注意する
- ・触った時はすぐに手を洗う
- ・マスクは1日に2～3枚交換する
(同じマスクを1日中や数日に渡って使用してはいけません)

◆外す時

- 1、ゴムの部分を持ち、上の方に移動させる
- 2、フィルターの部分の表面に触らないよう注意して、顔から外し、廃棄する
- 3、すぐに手を洗う

マスクをしているからウイルスを完全に防げるとは限りません。

マスク着用と併せて、**手洗い、うがい**をしっかりと行い体調管理をすることが重要です。

院内研修を行いました

～医療安全対策委員会～

看護師 K, M

テーマ

当院におけるインシデント・アクシデント動向

目的

インシデント・アクシデントの発生因子を把握し、危険の予知・防止への実践意欲を高める

内容

当院では、インシデント・アクシデント・

ヒヤリハットが発生した場合、レポートを作成・報告し情報共有を行っています。そこで、近年2年間のレポート報告件数と内訳を年間・月別に分けてグラフで表し比較しました。2年間ともに上位は、内服・調剤と転倒・転落に関してで、動向を把握することができました。



次に、事務・外来・病棟と3グループに分かれて、事例を用いて“なぜなぜ分析”を各自考えた後、意見交換・発表を行いました。“なぜなぜ分析”とは、問題をただ処置するだけではなく、「なぜ」を繰り返し問題を深堀することによって、表面的な原因に囚われることなく、根本原因（真因）に辿り着くことができる。それを把握し改善・対策することで再発を防ぐ考え方のことをいいます。

◆ グループワークのそれぞれの改善・対策を紹介します ◆

事務事例

『受付にて、外来カルテを出し間違えた』

改善・対策

- ・カルテを出す作業をできるだけ途中で中断しない
- ・中継して再度取りかかる時はもう一度名前を確認する
- ・患者さんと呼ぶ時など「〇〇さんですね」と名前を確認する
- ・保険証の名前とIDが合っているかダブルチェックする
- ・ダブルチェックできない時は指差し確認する
- ・繁雑にならない様、整理整頓する

病棟事例

『食前薬（インスリンや内服薬など）を忘れ配膳してしまった』

改善・対策

- ・タイマーの活用
- ・他のスタッフとの情報共有
みんながいる朝の時間に声を掛け合う
音や声に出して情報を共有する事で、他のスタッフへのアピールや自分自身の再確認に繋がる

外来事例

『患者が更衣中に転倒した』

改善・対策

- ・椅子を使用して更衣をしてもらう
- ・家族がいれば付き添ってもらう
- ・スタッフ間の情報共有
- ・設備を整える（手すり・広さなど）



この“なぜなぜ分析”を通してグループワークを行ったことにより、情報交換・共有のいい機会となりました。

感想

- ・ 日常の業務の見直しや自分を振り返ることができた
- ・ 人それぞれ色々な考えや気づきがあり様々な意見が聞け、共有できて良かった
- ・ 確認する意識の大切さ（必ず声出し・指さしでしっかり確認）
→危険回避することを再認識できた
- ・ 視野も広がり、今後の対策・工夫の必要性を確認することができた

まとめ 今回の勉強会では、年間目標でもある指差し呼称・声出し確認の大切さの再確認に繋がり、今後は更に危険予知・防止に対する意識を高め、患者さんが安心・安全な入院生活が送れるように努めていきたいと思えます。

2月の休日のお知らせ

11日・24日は祝日となっています。（カレンダー通り）
尚、**具合の悪い方・急患**はこの限りではありません。
いつでも遠慮なくお電話でお尋ね下さい。

博愛会 福田脳神経外科病院
☎0952 (29) 2223

